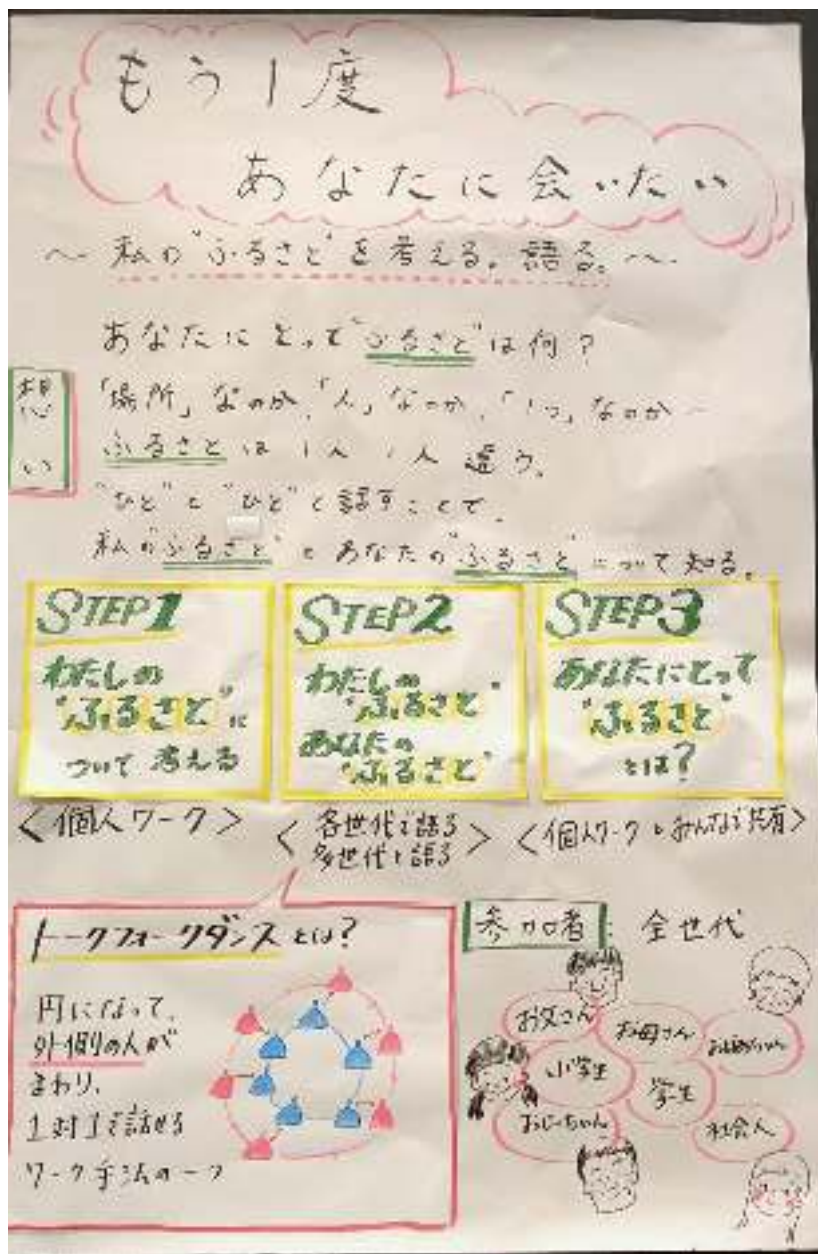


「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」 参加者発表内容

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

● Aチーム発表内容



もう1度 あなたに会いたい ～ 私の“ふるさと”を考える。語る。～

私たちが考えたテーマは、「もう一度、あなたに会いたい～私のふるさとを考える、語る～」です。
さて、ふるさと聞いて何を考え、思い浮かべますか。

登下校の帰り道でしょうか。親や友達顔でしょうか。家の近所にある城や寺でしょうか。私は大阪・岸和田市の出身です。だんじり祭りが有名で、そのだんじりや友達を思い浮かべました。

ふるとは「場所」なのでしょうか。それとも友人といった「人」なのでしょうか。それはひとつでしょうか。私は大学が東京にあり、授業で福島・飯舘村を訪れました。そこで訪れるにあたって、飯舘村を福島ふるさとなんじゃないか、と少しずつ思うようになりました。ふるとはひとつじゃないかもしれません。そして、ふるとは一人一人違うんじゃないでしょうか。

対話する中で、自分の、また相手のふるさとを知ることによってそこに愛着が湧き、真に自分のふるさとのように感じるのではないのでしょうか。そして、自分是对話した相手のふるさとを訪れ、相手は私のふるさとを訪れると、関係人口は増えていくのではないのでしょうか。そうした思いを叶えるために、私たちはこの事業を提案しました。

まずステップ①、私のふるさとについて考える。これは自分のふるさとを考えるパートです。

ステップ②、「私のふるさと、あなたのふるさと」です。これは、各世代と語るというもの。そこで私たちは形式として「トークマーズダンス」というものを採用したいと思います。これは、二重の円になって、外側の人回り、1対1で話せるというもの。そして、じっくり話すのです。これをする前にアイスブレイクとして、同世代数人で集まって交流してもらいます。その後、多世代で語ってもらいます。例えば、青のグループは20代、赤のグループは60代、と語り合ってもらうことで、新たな示唆が得られると考えています。

そして、ステップ③、「あなたにとってふるとは？」です。これはステップ①と同じことを聞いているのですが、ステップ②の多世代の交流で意見や考えが変わったりすると思うので、それを振り返り、共有をしたいと思います。ステップ①とステップ③で参加者に記入してもらい、自分のふるさとについての意見、価値観の違いを記録することでこの事業の成果としたいと考えています。

参加者は全世代を想定しています。お父さん、お母さん、子供世代、全てに参加してもらいたいと考えています。県内だけでなく県外からも来てもらいたいと考えています。グループは近い年代で分けたいと考えています。企業に勤めている方は色々な肩書があると思いますが、それは度外視して自分個人の考えでふるさとについて考えてほしいと思っています。

開催する場所はJヴィレッジが相応しいと考えています。特にJヴィレッジは日本の復興の象徴です。その場所で自分のふるさとについて考えることは重要だと思います。Jヴィレッジの芝生の上で考え、語り合うことが素晴らしいと思います。語り合った後に、相手に対して「もう一度あなたに会いたい」と言えるようになれば、この企画は成功したと言えると思います。以上です。

<質疑応答>

Q.日本のふるさとについて語り合う、という取組だが、参加者は浜通りの人が中心となるのでしょうか。

A.浜通りの方々だけでなく、県内または県外から来て欲しいと考えています。

目指したい 目指すべき 未来姿は？

背景 私たちが感じたこと

“復興”という言葉、本当に合ってる？
 元に戻すこと？それより発展させること？
 ④ 地域ごとに背景や現状が異なり、より複雑化している。

参加者間で **目標合わせ**

みんなが共通で 目指したい 目指すべき **未来の姿** を決めたい！！

参加者

① 浜通りの定住者 移住者
 ② 浜通りに関心のある人
 高年層がバランスポイントを多く集めるように
 30代程度も募集する。

実施方法

事前 アンケートと声と集める
 1日目 親睦会
 2,3日目 情報交換会
 4,5日目 交流会 ディスカッション

効果

① 共通の志を持つ
 ② 地域を元気づける
 ③ ボトムアップ形式の意見収集

展望

① 興味のある人を増やす
 ② つながり続けるコミュニティの生成拡大
 ③ 福島を起点にこの活動を全国へ！！

目指したい、目指すべき未来の姿は？

私たちB班は、「目指したい、目指すべき未来の姿は？」というテーマのもと、話し合いの場を持ちたいと考えました。このテーマ設定のこだわりとして、敢えて主語を置いていないということがあります。一人一人、目指したい街の姿であったり、こんな風になつたらいいな、復興したな、と感じる点は様々です。また、行政や街としての目指すべき姿も街ごとに異なります。今後、福島へ興味を持ってもらうにあたって、コミュニティの場が広がっていくと考えられます。そう考えると、「私たち」という主語を置いたときに、この「私たち」の定義が変わってくるはずです。また、「私たち」という主語を置いた場合、コミュニティに入りづらかったり、置いてけぼりにされている、と感じる人も出てくると思います。このような背景から、私たちは主語を置かないテーマを考えました。

テーマ設定の背景です。私たちは視察を通して、復興という言葉の意味について疑問を持つようになりました。復興って震災前の状態に戻すことでしょうか。それより、震災前の街の状況よりも発展させることですか。そもそも震災後、新しい取組を始めている時点で元の街に戻そうとしていること自体、違うのではないかと私たちは思うようになりました。また、福島では地域毎に背景や復興の状況が異なり、複雑化している現状があります。そのため、このような背景から復興に対するイメージや目指している復興がバラバラという現状があることに気がきました。参加者間、それよりもっと大きい範囲での目指すべき姿、**復興という言葉を使わずに何かひとつのものに向かっていく指標となるものを作っていけたら**、とこのテーマを設定しました。

具体的な実施内容について説明させていただきます。2とおりのグループに参加していただきたいと考えています。**浜通りの定住者、移住者の方々と浜通りに関心のある方々**のグループです。各年代が偏りなく、参加していただけるよう考えています。**人数は30人**ほどを想定しています。

実施の行程ですが、長いですが**4泊5日**ほどを想定しています。まず0日目として、参加して下さる方々に**ありのままの福島のイメージや印象を事前にアンケート**を実施します。こちらとしてもそれを聞いて参考にしつつ、参加者としても「自分は福島をこういう風に考えていたんだ」と知ってもらおうと思っています。

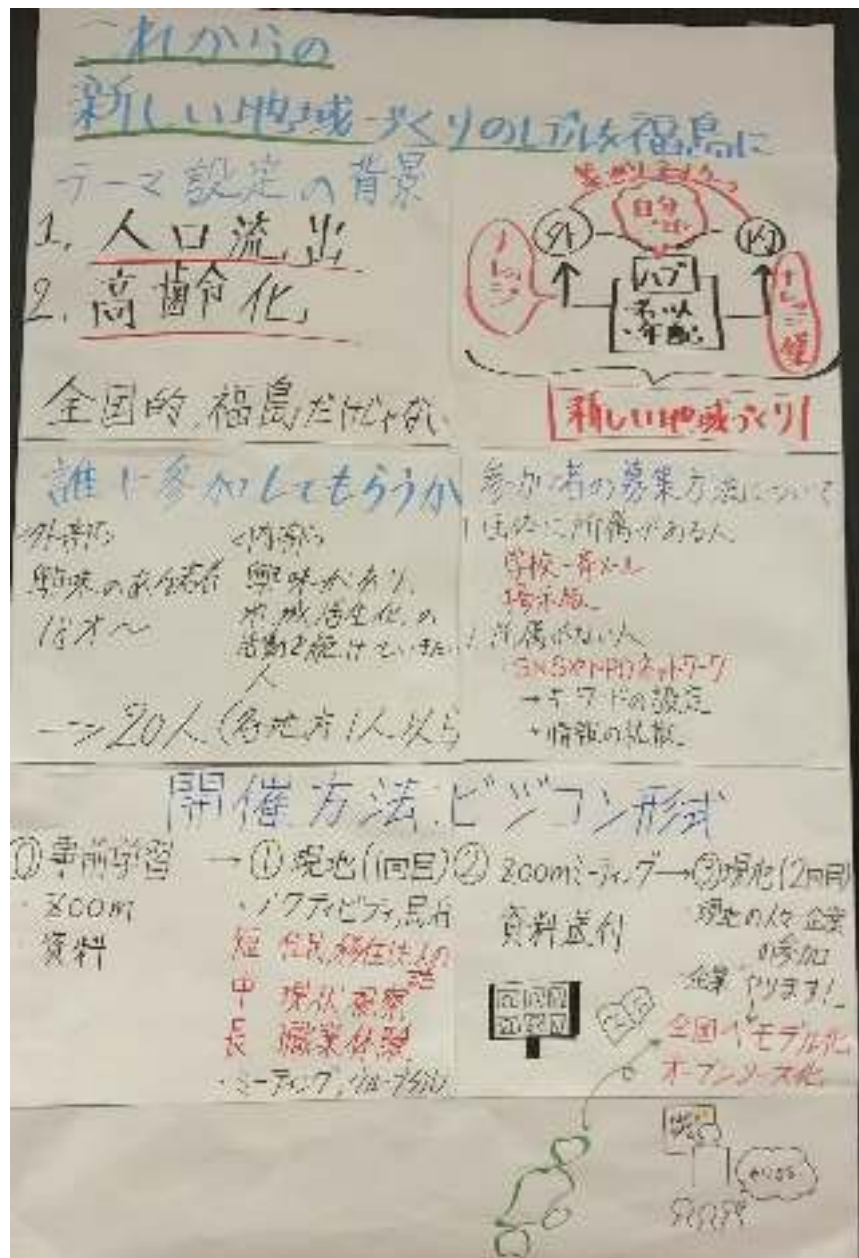
まず1日目は、それぞれのグループ、まとめて親睦会をしようと考えています。これは**鹿又のさつまいも掘りや乗馬を体験**したり、実際に福島にある体験をしてもらい、福島を知ってもらい、親睦を深めたいと考えています。2,3日目で視察という形で福島内を見てもらいます。**伝承館や中間貯蔵施設を視察**してもらって、知ってもらいたいと思います。4,5日目で実際に**交流会、ディスカッション**を通じて、「目指したい、目指すべき姿」はどういうものなのか、詰めていきたい。最後は、**宣言書**という形で出していきたいと考えています。

この活動の効果として、一番大きなものは共通の志を持てるところと考えます。それぞれ活動していても目指すところが違つと、それぞれが正反対に行ってしまうことも否めないと思います。具体的な活動をする前に、目標を定めて同じ目標に向けて進む、という絵が大事だと考えています。また、ギャップを埋めたり、活用するということも大事と考えています。ギャップを活用するのは、ディスカッションにおいて福島内、外で考えていることをミックスして新しい知見を生み出したり、ギャップを埋めるためには親睦会や交流会で実際に声を聞くことで正しい情報や知識を得られると考えています。3つ目のボトムアップ形式の意見収集で、普段は聞くことの出来ない意見を聞くことができると考えています。

最後に今後の展望についてです。現在は福島に関心のある人に限定されていますが、これを講演会やフォーラムを通じて国内、ひいては世界に発信していけたら、興味のある人を増やせると思います。また、興味のある人を増やすだけではなく、その人たちを繋げる、または繋がり続けるコミュニティを生成し、継続して運営していくことが大事かと考えています。

この活動は福島だけでなく、国内、海外にも通用する考え方と思うので、福島を起点にこの活動を全国に広めていければと考えています。

Cチーム発表内容



これから新しい地域づくりのモデルを福島に

私たちのチームが考えたテーマは「これから新しい地域づくりのモデルを福島に」です。福島と言えば、復興、復興と12年ほど言われ続けてきたのですが、ここで最先端として何か出来ないかということで、私たちが目指す最終的なゴールが「地域づくりのモデル化」ということです。ここに関わってくるのが、内部の人達と外部の人達です。それで、外部の人達というのは、イメージが付くと思いますが、福島を訪れる人達、内部の人達というのは、福島をふるさとする人達のことです。その人達が福島「浜通り」をハブとして様々なプロジェクトを行っています。そこで得られたものを、外の人達にとってはナレッジ、内部の人達にとってはナレッジと共に地域づくり。その成果自体がギフトとして得られていく、そのようなwin-winの関係のもと、新しい地域づくりのモデル化を目指していきます。

このテーマに至った背景ですが、昨日、視察を3か所行いました。伝承館から始まり、中間貯蔵施設としてはファームで様々な資料を見て、地元の皆さんのお話を聞いて、その中で問題が幾つか見えてきたのです。若者が少ない、仕事がない、といった問題を出し合った時、最終的に2つの大きな問題にまとめられると思います。一つ目が人口流出です。これは県内の都市の方へ行ってしまう若者の流出も含まれるんですが、それと共に12年前に福島の外へ出ていったり、戻って来ない人達も含んでいます。

二番目は「高齢化」です。これは福島だけではなく、全国的な課題かと思えます。ですので、**福島・浜通りをハブとして、全国、県内から多くの人達が集まって、一緒に色んなことをやって、そこで得られた知識というのを地域づくりに固定化してって全国に普及していけたらと、私たちは考えました。**

参加者については**全国から**募ります。現在は浜通りに住んでいないけれども、地域創生に興味のある18歳以上の若者、また現在浜通りに住んでいて、地域活性化に興味がある**若者**が対象です。全体で**20人**ほどを集めたいと考えています。

参加者の募集方法ですが、大学などの団体に所属している人に対しては、学校への一斉メールや掲示板を通じて募集します。団体に所属していない人については、NPOやNPOを通じたSNSを使って募集します。SNSでは「地域創生」や「移住」などのキーワードを使って拡散し、多くの方にこの活動を知ってもらいたいと考えています。

具体的な開催内容を説明します。まずは、**事前学習**として、zoomや資料を通じて福島の実況について知ってもらいます。その後、実際に**浜通りに来て、アクティビティや民泊**を行います。ここではアクティビティを短期、中期、長期の3つ設定していて、それぞれの参加者の希望に応じて選択できるようになっています。

具体的なアクティビティの内容としては、住民や移住した人の話を聞くことや、現状を視察したり、農業などの実際の職業を体験することを考えています。その後、アクティビティを通じて学んだことや考えたことをもとに、**ミーティングとグループ分け**を行います。その後、各グループごとにzoomなどで具体的なプランを考えていきます。最終的には、そこでまとめた地域創生のプランを企業の方々を含めた浜通りの人々に対して、**プレゼン**します。そこで賛同が得られたものについては、**企業と共同で実行**に移していく、ということを考えています。

ここでまた、モデル化の話に戻るんですが、開催方法①について、現地の人とどうやり取りをしたら、リアルなニーズを引き出せるか、また②、③で企業の方々へビズコンのように発表して企業の皆様に関心を持ってもらえるか、といったところをモデル化していったらと思っています。そして、最終的な報告書として発表するにとどまらず、その過程をSNSで発信していったり、固定したグループを作って、毎年継続して新たに募集をしていったり、その過程をまた発信していったり、また募集をして、とそういったサイクルを作りたいと思いますし、それをオープンソース化していったり、全国的に広まることを期待しています。

<質疑応答>

Q. 現地でアクティビティをされると発言があったのですが、どれくらいの期間、体験される予定なのでしょう。

A. 短、中、長期とご紹介しましたが、長くても2週間を予定しています。また、期間を問わず、現地の方と民泊という形で一緒に生活をするという形が相応しいと考えています。その中で視察をしたり、現地の方を招いて一緒にワークショップをやる、若しくは1対1でお話を聞く、というのを参加者が選んだ期間の中で出来るだけやっていただけたらよいかと考えています。

Q. その上で企業に提案をされていくと思います。その内容としては、どういったものになりますか？

A. 企業に対しては、一緒に商品開発をしたり、福島のPRしたいところと一緒にやっていきたいと思っています。実際に参加すると案がでてくると思います。現地で体験したり、民泊で感じたことを持ち帰って、その後zoomでミーティングをしたり、プレゼンをしたりしながら、最終的にはJヴィレッジでビズコンのような形で提案する、という流れを考えています。